

今、改めて考える信用金庫の源流

協同組織金融機関の祖 シュルツェ・デーリチュ(ドイツ)について

信金中央金庫 地域・中小企業研究所主任研究員

中西 雅明

(キーワード) 信用金庫、協同組合、シュルツェ・デーリチュ、フォルクスバンク、ドイツ

(視 点)

信用金庫は協同組合のひとつである。日本における協同組合にかかる法制度の源流を紐解くと、明治維新後、長州藩出身の品川弥二郎が米沢藩出身の平田東助とともに、ドイツの信用組合制度を研究し、1900年(明治33年)に産業組合法を制定、施行したことにはじまる。

そこで本稿では、品川・平田両氏が研究に没頭したというシュルツェ・デーリチュがつくりあげた協同組織金融機関について、その設立の経緯と思想について確認することで、信用金庫の源流への考察を試みた。

(要 旨)

- 協同組織金融機関の源流である欧州においては、主要国に最低1つの協同組織金融機関が存在するとともに、総資産額ベースの世界ランキングにおいても上位に位置づけられる協同組織金融機関が多い。また、欧州では平均すると各国で約20%のマーケット・シェアを有している。
- 国別にみると、イギリスは消費協同組合すなわち生活協同組合(生協)の母国であり、ドイツは信用組合の母国であるといわれる。両国とも産業革命の進展とともに、貧富の差が大きく拡大し、購買や資金調達などについて協同という概念にもとづき、現在につながる協同組合が19世紀に構築された。また、日本においても江戸時代に二宮尊徳が「五常講」という相互扶助の金融(協同組合)の仕組みを創設している。
- 歴史的にみると、1850年シュルツェ・デーリチュは零細な手工業者や小売業者の需要に対応するために協同組織金融機関を設立した。1859年には協同組合の中央組織を設立し、さらに協同組合の法制化にも尽力、1867年にはプロシアで初めて協同組合に関する特別法を成立させた。
- 旧東ドイツ時代には、シュルツェ・デーリチュの「自助」という思想は平等社会をめざす社会主義のイデオロギーとは対立するものとみなされ、弾圧された。しかしながら、東西ドイツ統一後は再評価され、シュルツェ・デーリチュ博物館など協同組合に関連する遺産や資料の多くは改修がほどこされている。

はじめに

信用金庫は協同組織金融機関であり、いわゆる協同組合のひとつである。協同組合の歴史を紐解くと、後世に大きな影響を及ぼした協同組合の源流は欧州にある。イギリスは消費協同組合すなわち生活協同組合（生協）の母国であり、ドイツは信用組合の母国であるといわれる。

その影響もあり、欧州においては協同組織金融機関のシェアが高いうえに、2008年に発生したリーマンショック後、商業銀行と比較して協同組織金融機関の経営が安定していたことから、協同組織金融機関に関する調査報告書が相次いで刊行された。また、国連やILO^(注1)（国際労働機関）からも注目され、国連総会にて2012年は「国際協同組合理年」となり、近年、協同組織金融機関について注目が高まっている。

そこで本稿では、欧州における協同組織金融機関の現状と歴史を取り上げるとともに、

協同組織金融機関の祖とされるシュルツェ・デーリチュにも光をあて、信用金庫の源流について今改めて考えていくこととしたい。

1. 欧州の協同組織金融機関の概略と歴史

(1) 欧州における協同組織金融機関の現状

協同組織金融機関の源流がある欧州には、主要国に最低1つの協同組織金融機関ないしは協同組織金融機関グループが存在し、20を超える協同組織金融機関が欧州協同組合銀行協会（EACB：European Association of Co-operative Banks）に加盟している。欧州協同組合銀行協会は、規制や会計の問題に対し協同組織金融機関を代表して意見表明を行っている。

協同組織金融機関の状況を2015年7月にThe Banker誌が公表した世界の銀行ランキング（総資産額ベース、**図表1**）によってみると、クレディ・アグリコル・グループが第9位、BPCEグループが第20位、クレディ・ミュチュエル・グループが第28位、ラ

図表1 欧州の協同組織金融機関の総資産額比較

（単位：百万ドル、億円）

世界ランキング	銀行名	国	総資産額	日本円換算
9	クレディ・アグリコル・グループ	フランス	2,139,275	2,567,130
20	BPCEグループ	フランス	1,484,585	1,781,502
28	クレディ・ミュチュエル・グループ	フランス	857,670	1,029,204
32	ラボバンク・グループ	オランダ	826,561	991,873
アジア	35 農林中央金庫	日本	787,193	944,632
	52 DZ BANK	ドイツ	488,523	586,228
アジア	83 農協金融グループ	韓国	287,222	344,666
アジア	87 信金中央金庫日本	日本	279,045	334,854
	131 OP-ポヒョラ・グループ	フィンランド	134,013	160,816
	143 WZ BANK	ドイツ	115,137	138,164

（備考）1. The Banker Top1000 World Bank（2015年7月）をもとに信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成
 2. 網掛けはグループ全体の総資産、それ以外は全国銀行の連結決算ベースでの総資産
 3. 銀行グループ内に保険会社を含む場合、保険会社分は含まれない。
 4. 1\$=120円で換算

（注）1. 信金中金月報2013年10～12月号『ILOレポート 景気下降局面で発揮される協同組織金融機関の強じん性Ⅰ～Ⅲ』

図表2 欧州の協同組織金融機関の国内シェア（2013 年末）

国	名前	預金シェア	貸出金シェア
ドイツ	協同組合銀行グループ	20.6%	19.1%
フランス	クレディ・アグリコル	23.3%	20.9%
	クレディ・ミュチュエル	15.0%	17.2%
	BPCE	22.0%	21.0%
オランダ	ラボバンク※	39.0%	31.0%
イタリア	庶民銀行	25.0%	26.4%
	BCC（信用協同組合銀行）	7.4%	7.1%
オーストリア	ライファイゼンバンク	30.0%	27.3%
	フォルクスバンク	7.0%	6.1%
フィンランド	OP-ポヒョラ・グループ	36.8%	34.6%

注：※ラボバンクは2012年末データ
 (備考) EACB Annual Report2013およびEACB Annual Report2014をもとに信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

ポバンク・グループが第32位、DZ BANKが第52位と100位までに5つの協同組織金融機関グループ、または、その中央金融機関が入っている。

さらに、欧州において、協同組織金融機関は平均すると各国で約20%のシェアを有している。もちろん国によって状況は異なるものの、フランス、オランダ、フィンランド、イタリアなどのように、協同組織金融機関が複数存在して非常に高いシェアを占めている国がある。それに対し、ベルギー、スウェーデン等のように、かつては協同組織金融機関が存在したものの、株式会社に転換するなどして、もはや存在感を失ってしまったような国もある（図表2）。

(2) 協同組織金融機関の歴史と世界への広がり

信用金庫は協同組織金融機関であり、いわゆる協同組合組織のひとつである。協同組合の歴史を紐解くと、後世に大きな影響を及ぼした協同組合の源流は欧州にある。イギリスは消費協同組合すなわち生活協同組合（生

協）の母国であり、ドイツは信用組合の母国であるといわれる。

まずはイギリスについてふれてみたい。イギリスでは18世紀末から19世紀初頭にかけて、イギリス産業革命の進展とともに、貧富の差が大きく拡大し、一部の悪質な業者が横行していたため、多数の労働者は生活必需品（小麦粉など）を購入する場合であっても、良質な品物を購入できないばかりか、品質が悪く高額な品物しか購入できない状況に追いやられることが多かった。

そこで、イギリスでは多数の労働者が生活必需品の一括購入のために結集する経済協同組合が全国各地に設立された。しかしながら、多くの協同組合は経営の仕組みが未熟であり、解散に追い込まれるケースも少なくはなかった。

こうした先人たちの失敗を踏まえて、現在のマンチェスター北部のロッチデール(Rochdale)に「ロッチデール公正先駆者組合」が創設された。この先駆者組合の特徴は、持続的かつ恒久的な経営が目指されている点にあり、のちに「ロッチデール原則」として体

系化されていくとともに、後世の手本として示されることとなる（図表3）。

つぎに、ドイツについてふれてみたい。19世紀半ばに産業革命がおきたドイツにおいては、イギリスと同様に貧富の格差が広がり、金融機関にアクセスできるのは富裕層などの限られた人々であった。そこで、手工業者や小規模事業者などのためにシュルツェ・デーリチュが協同組織金融機関（市街地信用組合 フォルクスバンク）を設立した。また、小規模な零細農業者などのために、ライファイゼンが農村信用組合を設立した。

これに対し、日本において、信用金庫を含む協同組織金融機関の歴史を紐解くと、江戸時代に二宮尊徳が「五常講」という相互扶助の金融（協同組合）の仕組みを創設したことに始まるといわれる。大日本報徳社（掛川市）の正門は、道徳と経済の調和した社会づくりをめざす、報徳の教えを象徴しているといえよう。

その後、明治維新を経て、日本へ近代的な協同組合思想が、欧州へ視察に行った品川弥二郎^(注2)や平田東助^(注3)などによってもたらされた。

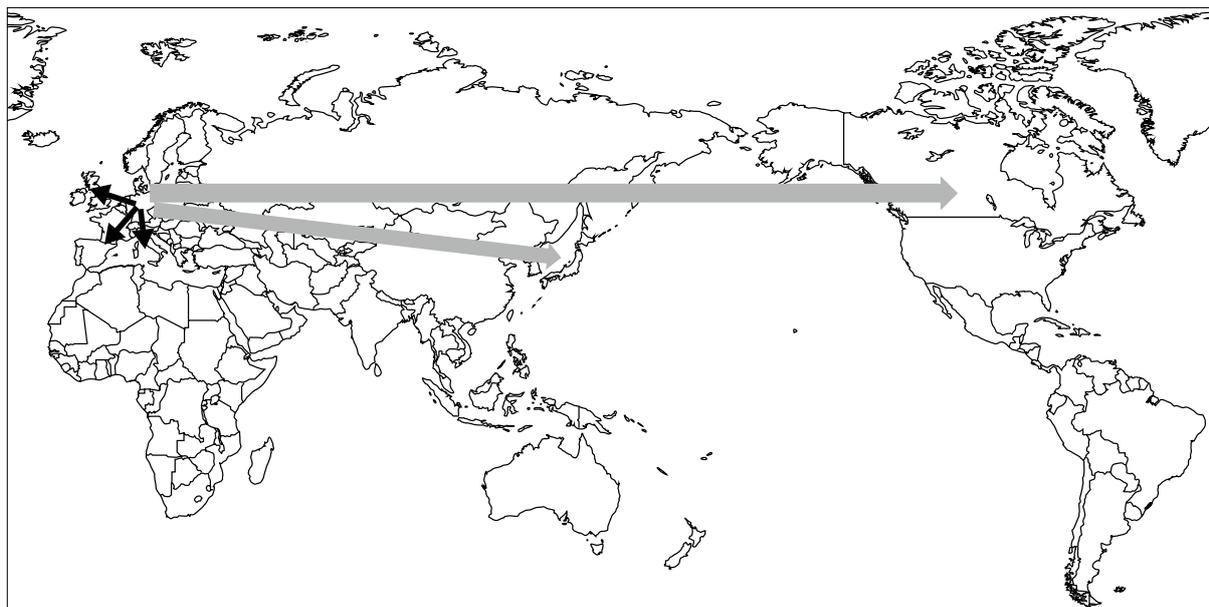
図表3 協同組織金融機関設立のあらまし（日本・欧米）

年	主な出来事	欧米	日本
1760	イギリス産業革命		二宮尊徳、小田原藩家老服部家で困窮武士を対象とした金融互助組織「五常講」を設立
1814			
1844	ドイツ産業革命	イギリスで「ロッチデール公正先駆者組合」創設	
1848		ドイツで、シュルツェ・デーリチュが「市街地信用組合」設立	
1850			
1862			
1864	イタリアで、ルツァッティが「庶民銀行」を設立		
1868	明治維新		二宮尊徳の高弟岡田良一郎が「勸業資金積立組合（現在の掛川信用金庫）」を設立
1879			
1891			
1895		イギリスで「国際協同組合同盟（ICA）」結成	「産業組合法」交付、施行
1900		カナダで、デジャルダンが「庶民金庫（ケース・ポピュラー）」を設立	
1909		アメリカで、デジャルダンが「信用組合（クレジット・ユニオン）」を設立	

（備考）シュルツェ・デーリチュ著 東信協研究センター訳編『シュルツェの庶民銀行論』日本経済評論社（1993年10月）および村本孜『信用金庫論—制度論としての整理』きんぎい（2015年2月）より信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

（注）2. 品川弥二郎（1843～1900年）：長州藩出身、1857年松下村塾に入り、吉田松陰に師事し、尊皇攘夷運動に奔走する。明治維新後、70年欧州留学、帰国後、駐独公使などをへて、84年子爵、91年第1次松方内閣内相に就任、産業組合の結成に尽力した。
3. 平田東助（1849～1925年）：米沢藩出身、大学南校（現在の東京大学）卒業後、1871年岩倉遣外使節団に随員し、ドイツ留学、帰国後、農商務大臣・内務大臣・内大臣を歴任した。1922年伯爵、山県有朋系官僚の有力者で産業組合運動などに関わった。

図表4 協同組織金融機関設立の波及（日本・欧米）



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

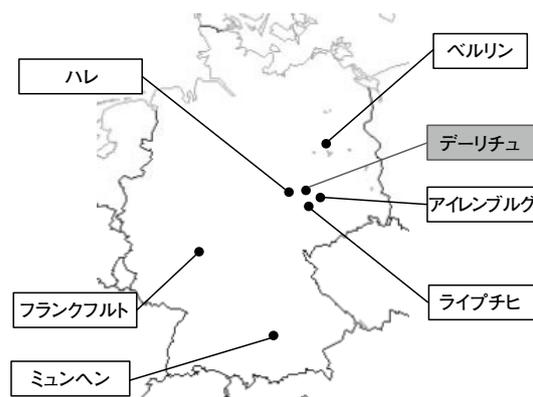
ここで改めて考えておきたいのは、非常に興味深いことに、日欧とも協同組織金融機関の源流はほぼ同時期に誕生している。ひるがえって、今日を鑑みると、日欧ともリーマンショックという荒波を乗り越え、新たな金融環境に立ち向かっている。

2. シュルツェ・デーリチュによる協同組織金融機関の設立と発展

本章では、世界で始めて後世に伝わる信用協同組合（協同組織金融機関）を設立したヘルマン・シュルツェ・デーリチュ（1808～83年）について振り返ってみよう。

ヘルマン・シュルツェは1808年に現在のドイツの小都市デーリチュ（当時の人口約5,000人）で生まれた（図表5）。幼少のころから学業成績優秀であり、ライプチヒ大学およびハレ大学にて法律を学び、司法試験合格を経て、1839年にはベルリン高等法院に法

図表5 ドイツの各都市



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

律家として勤めた。このときには、陸軍参事官に任命するとの誘いがあったものの、法律家としての資格を失いたくなかったため、断っている。1840年秋には故郷デーリチュに帰り、1841年に領主裁判官になった。1846年の凶作時には、デーリチュの牧師エドアルト・バルツァーと協力して、「穀物の買入れ・保管・製粉のための救援委員会」を

つくり、小麦粉を困窮者に分配した。こうした連携的な自助活動により、デーリチュにおいて日常的であった騒乱を鎮静化した。

さらに1848年には、プロイセン国民議会の議員となった。このとき、シュルツェという名前は他にも多かったため、出身地の名をとってヘルマン・シュルツェ・デーリチュと名乗るようになった。(図表6)。議会内の「手工業者層問題を扱う特別委員会^(注4)」の議長などを務めているうちに、零細な手工業者が資本家に対して地位を守りぬく上での協同の必要性を痛感するようになった。特に、資金調達面において、零細な手工業者は、大規模資本を取引の対象としている株式会社の銀行などからの融資を利用することは難しく、高利貸資本に依存せざるをえない環境に

あった。

こうした状況に対し、さまざまな金融機関が設立されたが、その大半が慈悲を基盤としていたため、借り手の返済能力をほとんど念入りに審査していないうえに、借り手も返済期日にきちんと返済することを考えなかった。そのため、こうした多くの金融機関が損失を被り、短期間ののちに廃業したり、細々と生きながらたりするだけであり、実際の要望にまったく対応できなかった。

これに対し、1850年シュルツェ・デーリチュは零細な手工業者や小売業者の需要に対応するために協同組織金融機関^(注5)を設立し、1852年には自助機関としての経営能力を改善向上するべく、新定款を定めるとともに改革再組織を行った。こうした取組みが成

図表6 協同組合にかかる主なシュルツェ・デーリチュの年表

年	事項
1808年	クールザクセンの小都市デーリチュに8月29日誕生
1838年	ベルリンで第3次司法試験の口頭試問に合格、ナウムブルグの州高等法院に勤務
1839年	ベルリン高等法院に職を得て、行政裁判所などで仕事をする。
1841年	郷里デーリチュの領主裁判官になる(～1849年)。
1848年	ドイツ3月革命
1848年	プロイセン国民議会の議員となり、議会内の「手工業をとくに重視した商工委員会」委員に選出
1850年	手工業者に資本を提供する旧前貸組合がデーリチュに創設され、5月に金融業務開始
1852年	デーリチュの旧前貸組合、改革再組織される。
1853年	『ドイツ手工業者及び労働者のための協同組合読本』出版
1859年	「第1回ドイツ貸付信用組合合同会議」開催、中央連絡機関(のちのドイツ産業及び経済組合中央機関)の設置が決定
1862年	中央連絡機関に「ドイツ産業及び経済組合中央機関」の名称が与えられ、シュルツェは初代表となる。
1864年	「中央機関」が「自助原則に立つドイツ産業及び経済組合総協会」になる。
1867年	シュルツェの影響のもとに、プロシアで最初の「私法上の地位に関する産業及び経済協同組合法(協同組合に関する特別法)」ができる。
1867年	北ドイツ連邦成立
1869年	協同組合に関する特別法が北ドイツ連邦で発効
1871年	ドイツ帝国建設、ドイツ帝国憲法発布
1871年	協同組合に関する特別法がドイツ帝国の法律となる。
1883年	ポツダムにおいて死去

(備考) シュルツェ・デーリチュ著 東信協研究センター訳編『シュルツェの庶民銀行論』日本経済評論社(1993年10月)をもとに信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(注)4. この委員会は、特に手工業者層からの多種多様な請願について審議し、結論を出す組織であった。

5. この協同組織金融機関は前貸組合(市街地信用組合)といわれる。

功を収め、ドイツ各地に次々と協同組織金融機関が設立されていった。

協同組織金融機関の設立に際して、留意すべき最も重要な点は組合員資格とその位置づけであった。組合員の無限責任制度の導入^(注6)、自己資本安定化のための組合員の月次出資、非組合員への貸出の禁止といったことなど、組合員制度を経営資本増強の仕組みにうまく取り入れていったことが後世の手本となった。

さらに、成功へと導いた思想としては、主として次のことがあげられよう。①金融を必要とする人たちが自身の自助の精神を基本とし、国家や富裕層の補助や慈善に頼るべきではないこと。そのためには彼らの自負、自ら

図表7 デーリチュに存在するシュルツェ・デーリチュの銅像



(備考) 筆者撮影

の力への信頼を高め、自助手段を自分のものとして認識させるよう教育するとともに、この自助原則を連携の形式で組み立てて組合として組織すること。②協同組織金融機関は貧者を救うことではなく、貧困化を防ぐこと。③正確な統計資料（財務諸表など）なくして妥当な最終判断は不可能であることから、正確な統計資料作成に心がけること。④出納管理は文字書きと会計についての深い知識と多大な苦勞・時間を要するものであるから、出納役職者には相応の給料を払うこと、などである。

デーリチュで協同組織金融機関の改革再組織を行った後、シュルツェ・デーリチュは、1853年に『ドイツ手工業者及び労働者のための協同組合読本』を出版し、1859年には協同組合の中央組織を設立した。さらに、協同組合の法制化にも尽力し、1867年にはプロシアで初めて、協同組合に関する特別法を成立させた。

協同組合に関する特別法が成立したことで、プロシア全土の貧困にあえぐ小売業者は資本と協同が手に届くようになった。その後も国政がプロシアから北ドイツ連邦、ドイツ帝国と変わる激動の時代の中でも、シュルツェ・デーリチュは精力的に活動し、1883年にポツダムで中小商工業者への恵みをもたらした人物という名声を残して死去した。

シュルツェ・デーリチュが構築した協同組織金融機関のシステムはヨーロッパ各地や日

(注)6. ただし、シュルツェ・デーリチュは1881年に有限責任も認めることを正式に表明し、89年には有限責任の協同組合も認める「産業及び経済協同組合に関する法律」がドイツ帝国法として発布されている。

図表8 シュルツェ・デーリチュ広場（ベルリン）



シュルツェ・デーリチュの銅像（ベルリン）



（備考）筆者撮影

本などにも影響を与えており、まさに協同組織金融機関の祖の一人といえよう。

3. デーリチュ市への訪問にあたって

(1) デーリチュおよびドイツの都市について

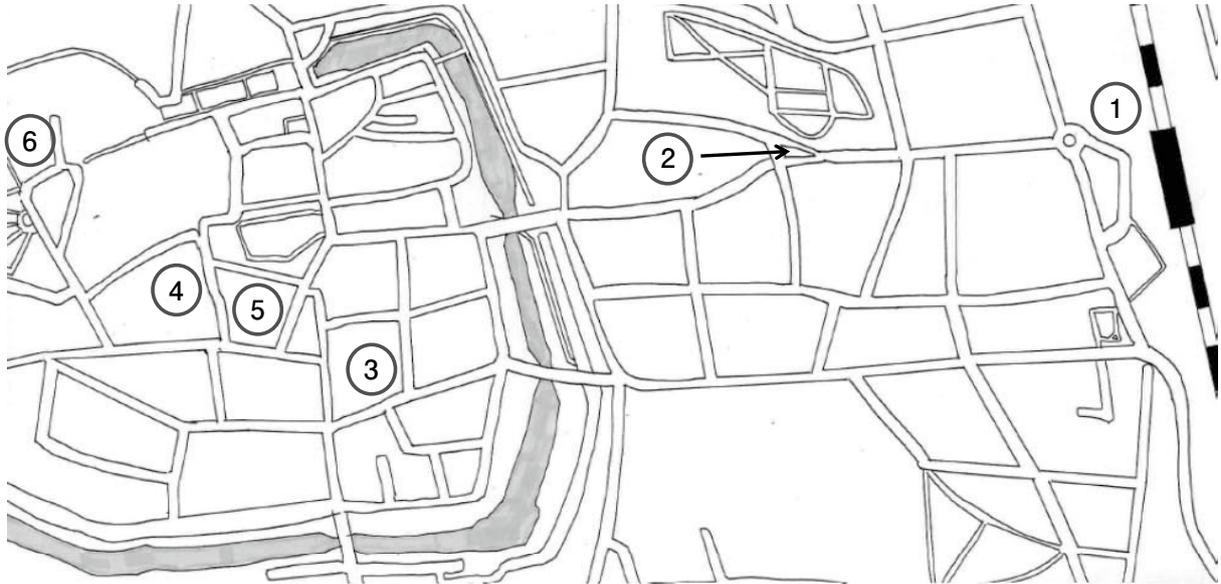
筆者は、2015年8月にドイツを訪問する機会があり、デーリチュにも立ち寄ることがで

きた。デーリチュは旧東ドイツの一地方都市であり、地理的に少しわかりづらいところがあることから、ここでは詳細に記述することとしたい。

デーリチュには、ベルリンーライプチヒを結ぶ南北の鉄道とハレーアイレンブルクを結ぶ東西の鉄道の2つの鉄道があり、現在でも2つの駅が共存している。なお、シュルツェ・デーリチュ博物館やデーリチュ城を訪問する場合は南北の鉄道を利用すると便利である。筆者はフランクフルトからライプチヒまで特急電車を利用し、ライプチヒから普通電車に乗り換え、20分程度でデーリチュ駅に到着した（図表9-①）。

デーリチュ駅から城壁に囲まれた街の中心街に向かって西へ進むとマリエーン・プラッツ（Marien-platz）があり、ここに図表7で紹介したシュルツェ・デーリチュの銅像がある（図表9-②）。街の中心街には、他のドイツの都市でもみられるように、教会（Stadtkirche St.Peter & Paul）と現在でも市場（いちば）の役割を果たしているマルクト広場（Markt）がある（図表9-⑤）。マルクト広場をへだてて正面の建物がシュルツェ・デーリチュの生家があった場所であるが、現在は改築されており、当時の面影をうかがい知ることはできない（図表9-④）。また、マルクト広場の北西にはデーリチュ城がある（図表9-⑥および図表10）。このデーリチュ城は、現在観光案内所などを兼ねた博物館となっており、近世の城主の暮らしぶりを見学できるとともに、塔の最上階からはデーリ

図表9 デーリチュ市の概観



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

チュを一望することができ、街を鳥瞰的に把握することが可能だ。また、塔の最上階にはデーリチュの産業革命後の工業化の様子が展示されており、一見の価値があるといえよう。

ここで、ドイツの都市について少し触れておきたい。ドイツにおける都市はローマ帝国時代以降、農産物や毛皮、木材、貴石などの

集散地としての機能を果たすとともに、中世以降は、キリスト教がヨーロッパ各地へと普及する過程において、布教活動の拠点として位置づけられ、中心部に教会が設置されていった。また、外敵から都市を守るため、市街地を取り囲むように堅牢な市壁が整備された(図表10)。

図表10 デーリチュ博物館^(注7)(旧デーリチュ城)



(備考) 筆者撮影

近世のデーリチュの街並み(模型)



(注)7. ウェブサイト：<http://www.barockschloss-delitzsch.de/>

産業革命後、19世紀の人口の急増に伴い、多くの都市では市街地を取り囲んでいた市壁が撤去され、工業地域・住宅地などが市壁の外側に整備されていった。しかしながら、2度の世界大戦でドイツの各都市は大きな損害を受けることとなった。戦後、旧西ドイツにおいてはアメリカ合衆国の支援により急速な経済復興が進み、再建を果たしたのに対し、社会主義体制化に置かれた旧東ドイツでは都市の中心部にある歴史的建造物が、平等社会をめざす社会主義のイデオロギーとは対立する過去の遺産としてみなされ、その多くが無視されてしまった。このような影響もあり、旧東ドイツの各都市は、歴史的な中心部が衰退・空洞化し、市民の生活空間が都市周辺部へ移行するという、旧西ドイツの都市とは著しく異なる変化を遂げるようになった。

しかしながら、東西ドイツ統一後は、都市の中心部にある歴史的建造物が都市の歴史や伝統文化を景観に表現する場所として再評価されており、急ピッチで都市の整備が進められた。なお、デーリチュ城も東西ドイツ統一後に、改装工事が行われ、現在は非常に美しい景観を取り戻している。

(2) シュルツェ・デーリチュ博物館^(注8) (Schulze Delitzsch Haus)

デーリチュの中心部であるマルクト広場(Markt)から少し離れた場所にシュルツェ・デーリチュ博物館がある(図表9-③)。こ

の博物館は最初の靴職人組合が結成された建物を改築したものである。

ドイツにおいて、シュルツェ・デーリチュは協同組合の創始者として理解されているものの、東西ドイツ統一直後はこの靴職人組合が結成された歴史的建造物も荒廃していた。その大きな理由としては、旧東ドイツではラッサール^(注9)らが「国家主義」的な思想から支持されたのに対し、シュルツェ・デーリチュは「自助」(他人の力によらず、自分の力だけで事を成し遂げる)という思想のため弾圧されたとみられるためである。

たしかにシュルツェ・デーリチュの「自助」という概念は、手工業者の相互扶助を前提とするものであり、しかもその際、国家の役割は消極的なものと理解されていたのであろう。その意味において、「国有化」を推し進めていた旧東ドイツでは、シュルツェ・デーリチュの思想は、問題のあったものであると推察される。

さて、東西ドイツ統一後、シュルツェ・デーリチュ博物館は改築がなされ、現在に至っている。1階入り口から右手の部屋には、シュルツェ・デーリチュの銅像や現在出版されている協同組合関連の書物が展示および販売されている。また、左手の部屋には当時の製本職場が再現されている。2階には、シュルツェ・デーリチュの生涯と著作や関連文献の展示が行われている。肖像画、写真、地図、当時の革靴や工具等といった貴重な資

(注)8. ウェブサイト：<http://www.genossenschaftsmuseum.de/index.php?id=6>

9. フェルディナント・ラッサール(1825～64年)：ドイツ社会民主党の母体となる全ドイツ労働者同盟の創始者であり、その功績により、ドイツ社会主義の創始者とされる。

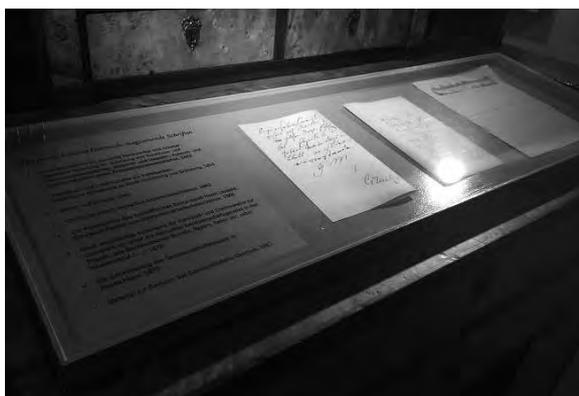
図表11 シュルツェ・デーリチュ博物館と関連文献の展示
(概観)



(1階 展示)



(2階 展示)



(備考) 筆者撮影

料が展示されているとともに、ライフアイゼン、ラッサール、フーバー^(注10)など協同組合に関係する著名な人物の紹介もされている。

筆者がシュルツェ・デーリチュ博物館を訪問した際、偶然にもフォルクスバンク（ハレ）の若手職員10名程度が訪問しており、30分程度博物館を見学したのち、熱心に議論している様子が印象的であった。また、博物館の職員からシュルツェ・デーリチュの説明を受ける機会を得た。その中で、最も感銘を受けたのは、協同組織金融機関はとても「リベラル」ということである。確かに、筆者が思うには、一般的に株式会社の議決権は保有株式数で決まるのに対し、協同組織金融機関は原則として一人一票という非常に民主的な議決方式である。なお、シュルツェ・デーリチュ博物館にはヨーロッパのみならず、最近では台湾からも訪問者があり、協同組織金融機関の思想はヨーロッパ、日本だけではなく、アジアにも一部ではあるが浸透しているとみられる。

おわりに

本稿では、欧州の協同組織金融機関について概観するとともに、発祥の地であるドイツのデーリチュを訪問し、協同組織金融機関の祖であるシュルツェ・デーリチュの活躍と現在のシュルツェ・デーリチュ博物館の状況を中心に取りまとめた。また、非常に簡略化した形ではあるが、シュルツェ・デーリチュがつくりあげた組合員を中心とした協同組織金融機関の経営モデルや成功へと導いた思想についても触れた。

(注) 10. ビクトル・エメ・フーバー（1800～69年）：ドイツの学者、協同組合理念の普及のための執筆家。協同組合関連では、1848年に労働者階級の自助に関するパンフレットを執筆、52年には『イギリスにおける協同組合的な労働組織について』を出版した。

地域における人口減少や高齢化、金利低下などにより金融機関の経営環境が厳しさを増し、平成27事務年度金融行政方針などからも持続可能なビジネスモデルの構築が求められている今、シュルツェ・デーリチュのよ

うに現実を直視し、各々が解決策について知恵をしぼるとともに、地に足をつけた行動をひとつひとつ実行していくことが重要になっていくのではないだろうか。

〈参考文献〉

- ・加賀美雅弘 川手圭一 九瀬良子『ヨーロッパ学への招待ー地理・歴史・政治からみたヨーロッパ』学文社（2014年4月）
- ・シュルツェ・デーリチュ著 東信協研究センター訳編『シュルツェの庶民銀行論』日本経済評論社（1993年10月）
- ・シュルツェ・デーリチュ博物館ウェブサイト <http://www.genossenschaftsmuseum.de/index.php?id=6>
- ・信金中央金庫『信金中央金庫六十年史』（2011年9月）
- ・信金中金月報2015年8月増刊号『今、改めて考える信用金庫の源流「一人は万人のために、万人は一人のために」』（2015年8月）
- ・友貞安太郎『ロッチデイル物語ー近代協同組合運動の起こりと原則の成り立ちー』コープ出版（1994年4月）
- ・農林中金総合研究所『欧州の協同組合銀行』日本経済評論社（2010年12月）
- ・村本孜『信用金庫論ー制度論としての整理』きんざい（2015年2月）
- ・EACB Annual Report（各年版）
- ・EACB ウェブサイト <http://www.eacb.coop/en/home.html>